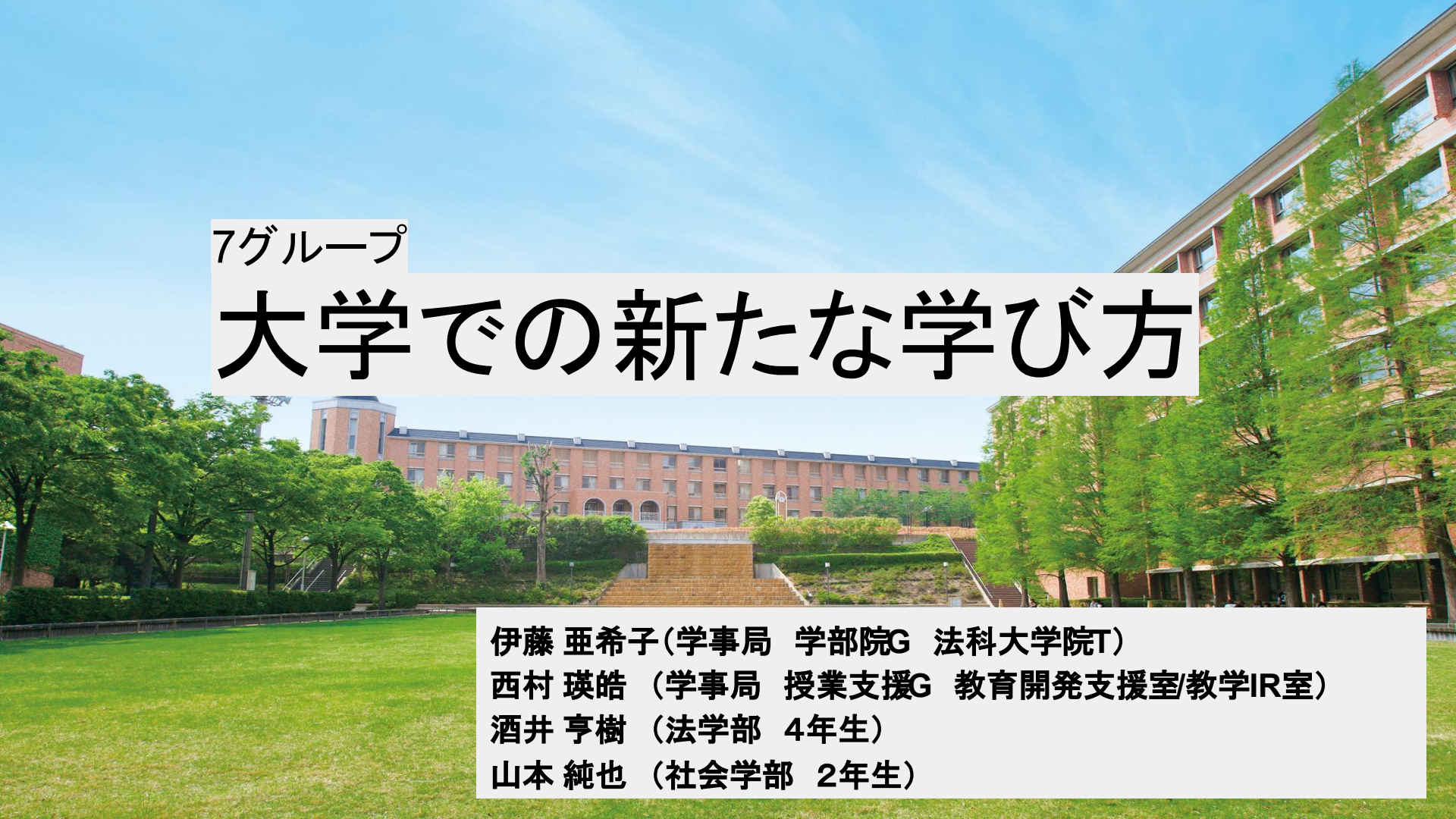




7グループ

大学での新たな学び方

伊藤 亜希子(学事局 学部院G 法科大学院T)

西村 瑛皓 (学事局 授業支援G 教育開発支援室/教学IR室)

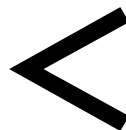
酒井 亨樹 (法学部 4年生)

山本 純也 (社会学部 2年生)

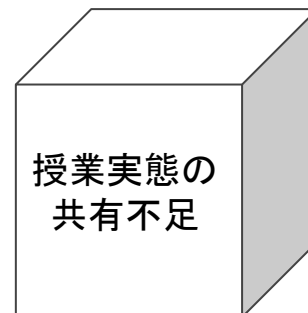
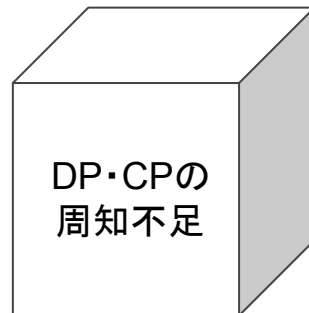
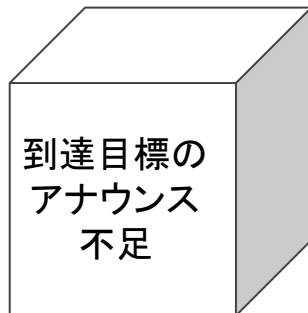
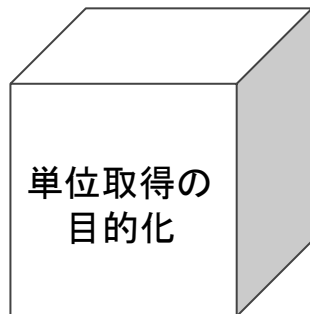
1. 本学における現状の課題点

はじめに...

学びに主体的な学生
➡ ポジティブ学生

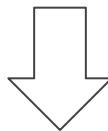


学びに受動的な学生
➡ ネガティブ学生



1. 本学における現状の課題点

ポジティブ学生が少ない



主体的に学べていない(学ぶ機会が少ない)ため、教育面に対する満足度が低い

※関西大学2019年度卒業時調査より

施策の目的: 主体的に学ぶ学生(ポジティブ学生)数を増加させることで、
学生の教育面に対する満足度を向上させる

2. 課題を解決するには

- ・学生と教員の両者における「学び」に対する意識改革



主体的に学ぶとは？
学び方の身につけ方は？

- ・学生に対する学部や大学での学びに対する情報提供



学部理念やDPを
伝えられているか？

- ・授業に対する情報共有



科目の設置効果は？
フィードバック、コミュニケーション
は十分か？

2. 課題を解決するには

・学生と教員の二者における

主体的に学ぶとは？
学び方の身につけ方は？

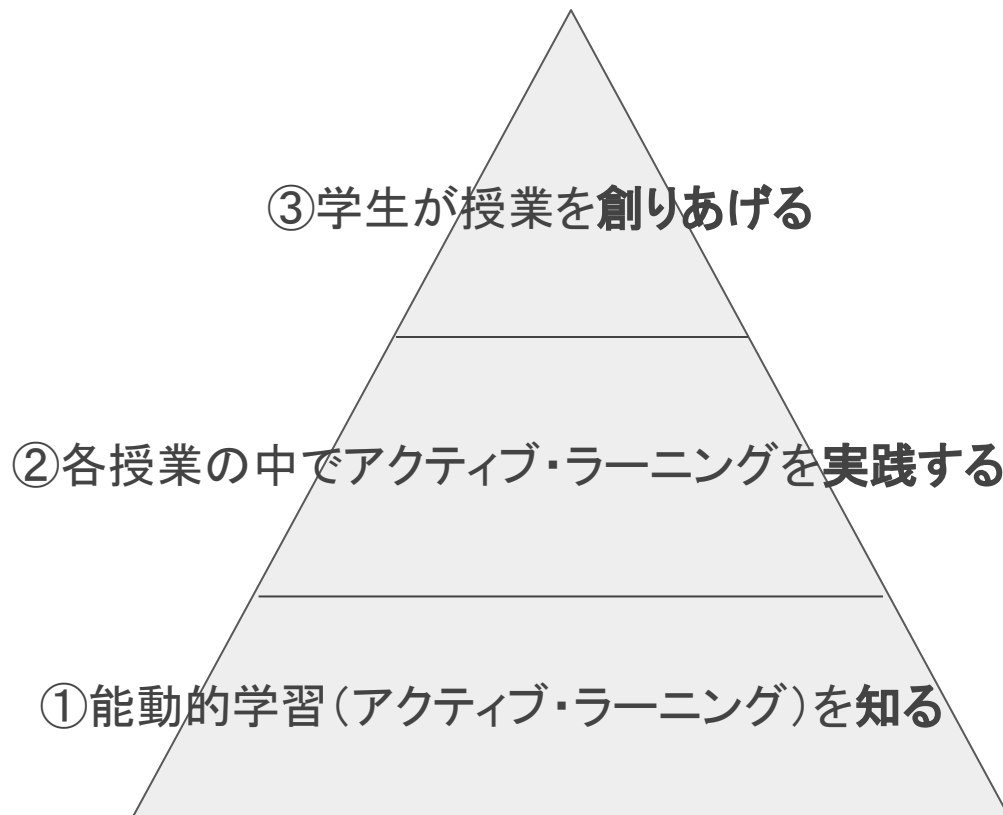
・学

**学生・教員・職員
三者協働で授業を展開する**

・授

十分か？

3. ポジティブ学生の道のり



4. アクティブ・ラーニングとは？

 **伝統的な教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、
学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称**

(中央教育審議会 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～
(答申))

 **学習者が能動的に学ぶことにより、知識や情報が定着し易く、後々であっても学んだ
内容を思い出し易いのが特徴である。**

(大学行政管理学会 学事研究会(編)『職員による職員のための-大学用語集』)

(中央教育審議会 学士課程教育の構築に向けて(答申))

4. アクティブ・ラーニングとは？

▶ 学生の満足度について

大学に対する満足度と共通教養科目（アクティブラーニング科目）に関する授業の相関係数は0.49（正の相関）

→ アクティブラーニング授業に対する満足度が上がれば大学満足度も向上する

（関西大学 2019年度卒業時調査）

相関：大学満足度×大学生生活の満足度

大学満足度との相関が強い順に10項目を抜粋



矢田尚也「アンケート調査から見える本学の課題や学生の特徴」より一部抜粋

5-①. アクティブ・ラーニングを知る

スタディスキルゼミ(目標設定能力を身につける)

- ▶ 学び方を学ぶ
→「学ばされる」学習から**脱却**
- ▶ 目標設定の方法を学ぶ
→4年間の「学び」の**基礎**
- ▶ 履修中の科目を利用し、目標を設定する
→スタスキのための授業内容**×**

今ある科目に**プラス+**

シラバス検索 / Syllabus Search		
2020 年度の講義要項のデータベースを検索します (科目検索、キーワード検索の)		
🔍 カリキュラム検索 / Search by Curriculum Table	📖 科目検索 / Search by Subject Name	👤
カリキュラム科目を表示します。		
配当年次	授業科目 (時間割コード)	単位
1年次	▶ スタディスキルゼミ (プロジェクト学習)	
1年次	▶ スタディスキルゼミ (文章力をみがく)	
1年次	▶ スタディスキルゼミ (論理的に考える)	
1年次	▶ プロジェクト学習 1 (人間を知る)	
1年次	▶ プロジェクト学習 1 (社会を知る・自然と向き合う)	
1年次	▶ スタディスキルゼミ (レポートを作成する)	
1年次	▶ スタディスキルゼミ (プレゼンテーション)	
1年次	▶ スタディスキルゼミ (ディベート)	
1年次	▶ スタディスキルゼミ (新聞で学ぶ)	

5-②. アクティブ・ラーニングを実践する

各科目の到達目標に合わせ、
一人ひとりが目標達成までの道筋をイメージする



- ▶ CP・DPの周知
→4年間の「学び」の方向性確認
- ▶ 学生と教員とのコミュニケーション
→目標達成に向けたサポート

学びの方向性をより明確に

5-③. 学生が授業を創りあげる

学生が活動の主体となり、授業を設定する

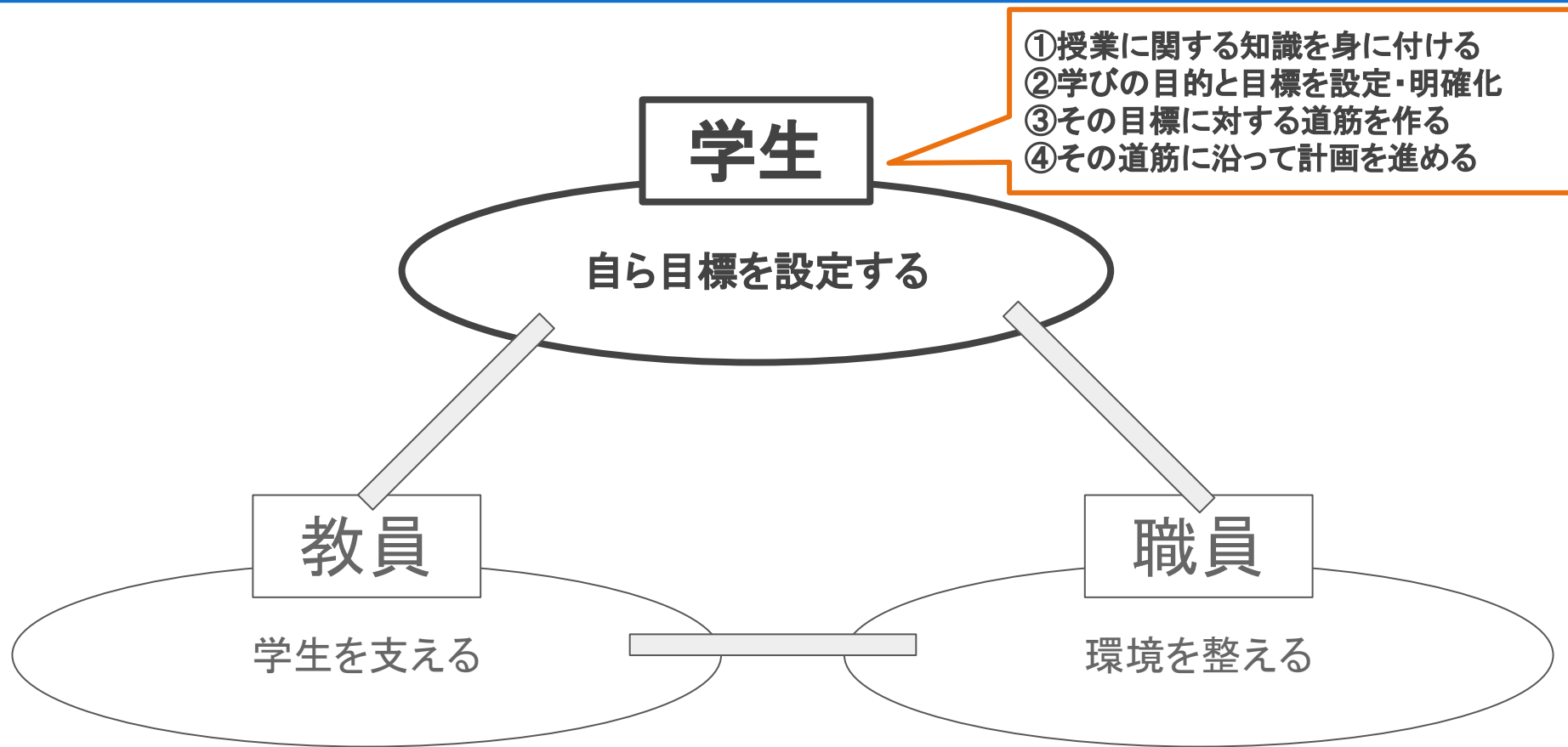
- ▶ 学生
→ テーマや目標の設定等、活動の主体
- ▶ 教員
→ 学生補助、科目担任
- ▶ 職員
→ 授業実施に関する事務補助



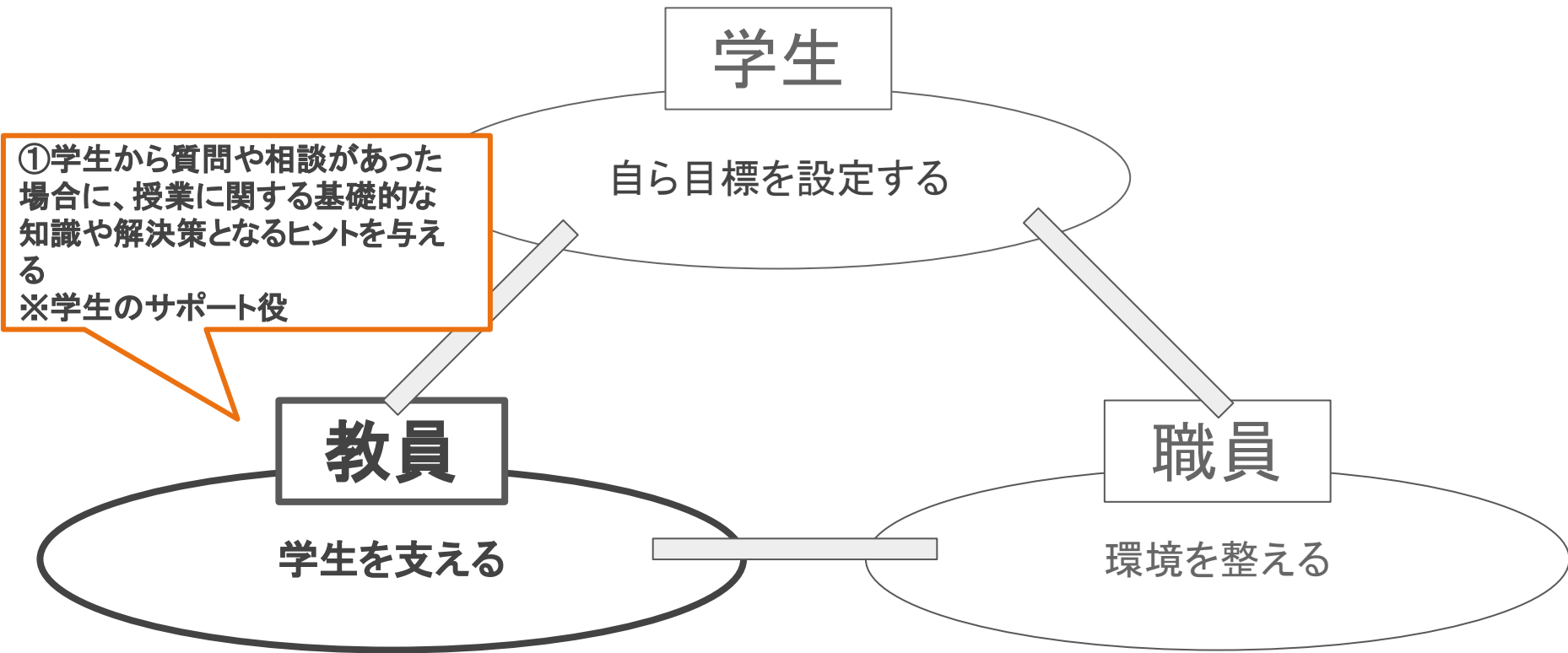
三者協働で授業を展開

参考例) LAラーニングカフェ、科目提案学生委員会、大隈塾(早稲田大学)

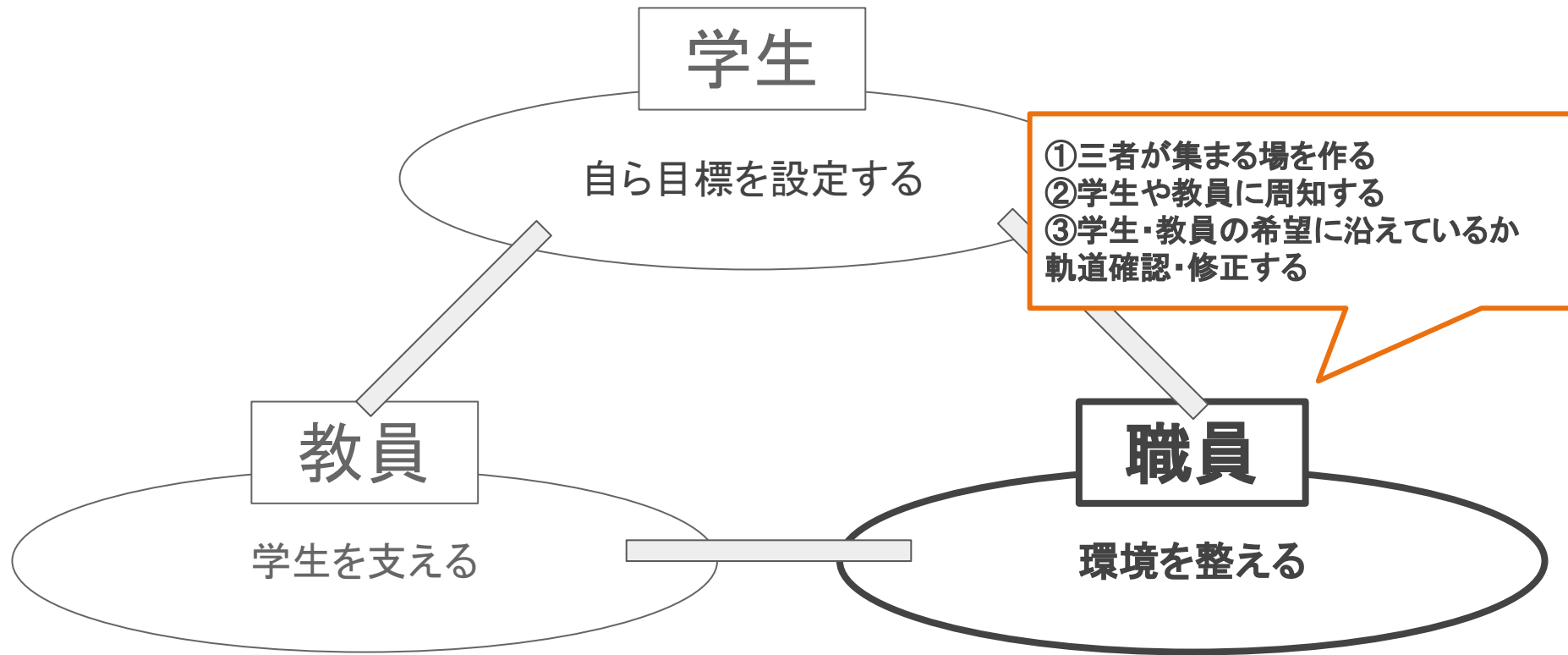
6. 三者協働の役回り



6. 三者協働の役回り



6. 三者協働の役回り



7. 期待される効果

ネガティブ学生の成長 潜在的なポジティブ学生の表出化

学生：深い学びを主体的に行うことができる

教員：新たな視点から授業設計の考え方を見直し、担当授業に活かすことができる

職員：学生の満足度が向上し、“スチューデントファースト”を実現できる

8. 効果の測り方

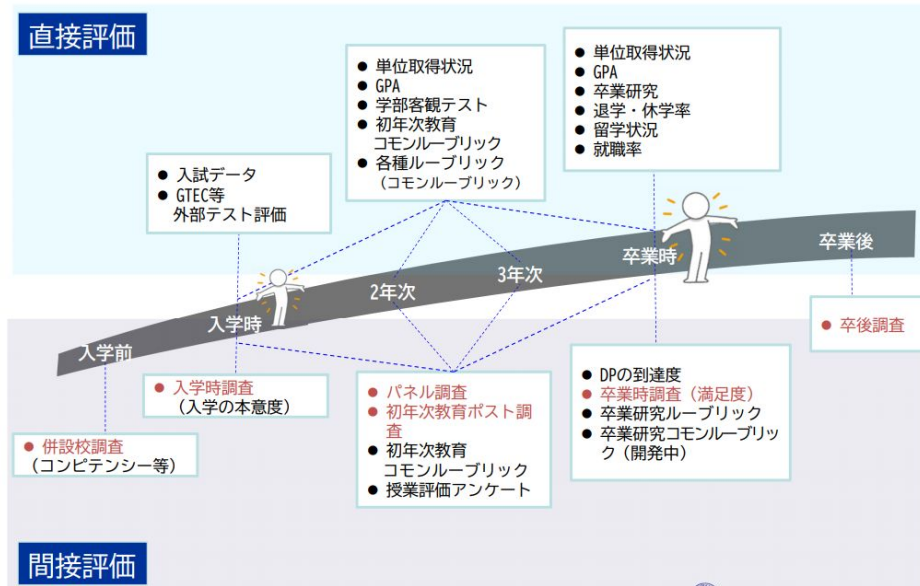
▶ 授業アンケート、
卒業時調査、卒後調査の継続

▶ 教員へのアンケートの実施

▶ 職員からの振り返り調査

学生の学びと成長のアセスメント・プラン

18



矢田尚也「アンケート調査から見える本学の課題や学生の特徴」より一部抜粋

8. 効果の測り方

学校法人関西大学全体のキーコンピテンシー

1	自律力	・ 思考判断力 ・ 生涯学習力
2	人間力	・ リーダーシップ ・ 傾聴と発信
3	社会力	・ 社会の規範と課題 ・ 社会に貢献
4	国際力	・ 英語の習得と活用 ・ 異文化理解
5	革新力	・ 価値の創出 ・ 生涯学習力

矢田尚也「アンケート調査から見える本学の課題や学生の特徴」より一部抜粋

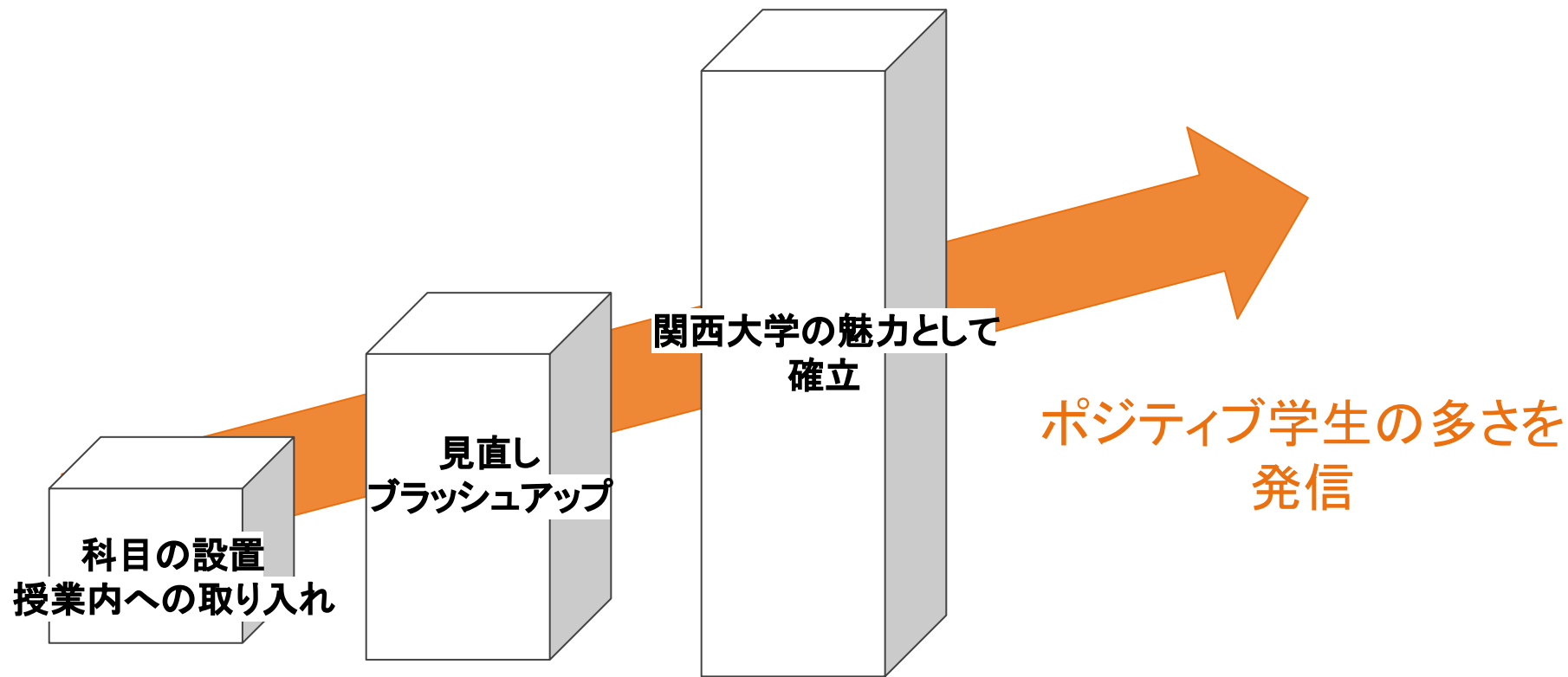
9. 実施にあたって想定される課題

- ①学生、教員、職員からの理解が必要である
- ②施策の導入や実施に大きな労力がかかる
- ③企画、実施、振り返りまでが長期間にわたる
- ④現在のカリキュラムへの編成にかかる難易度が学部によって異なる



継続的・段階的な取り組みを！

10. 今後の展開



11. 関西大学をより良くするために

「今ある学びのカタチ」を「新たな学びのカタチ」へ

